

山口県立下関北高等学校
令和2年度第3回学校運営協議会 会議録

1 日 時 令和3年2月17日(水) 午後5時30分から午後7時まで

2 場 所 山口県立下関北高等学校 会議室

3 参加者 17名
学校運営協議会委員 10名(校長を除く)
学校関係者 7名(校長、教頭、事務長、教諭4名)

4 内 容

(1) 校長あいさつ

- 今年度は、コロナウイルス感染症の影響で臨時休校から始まり、さまざまな教育活動が実施困難な状況が続いてきた。その中で、できる限り学校・家庭・地域が連携し、生徒の達成感を高める教育活動を展開してきた。
- 第2回学校運営協議会での協議にあったように、引き続き地域と連携・協働した活動を通して本校の魅力を発信していきたい。
- 本日の協議会は学校運営状況の報告および評価が主な内容になる。忌憚のない御意見をお願いしたい。

(2) 本日の予定及び資料確認

(3) 協議等

①会長挨拶

- 今年度は、コロナウイルス感染症の影響で十分な教育活動が実施できなかった。さらに、委員も学校に足を運ぶことができず、学校の状況を把握しきれていない部分があるが、報告を聞いて協議していただきたい。

②報告・協議

1 令和2年度学校運営状況の報告及び評価

- 生徒・保護者・教職員を対象に実施した学校運営に関するアンケートの結果をもとに作成した『令和2年度「学校評価」について』(資料2)及び、『学校運営に関する点検・評価資料』(資料1)を用いて、今年度の本校の教育活動についての全般的な説明と、評価の参考になるアンケートの結果を報告(教頭、事務長、各課課長)
- 学校の説明を受けて、学校運営協議会委員が、学校関係者評価について協議

【委員からの主な意見】

- ・ハロカぼランタンプロジェクトは地域連携の面でありがたい。一過性のものにならないように協力していきたいと思う。with コロナで実施可能なものをしていかなければならない。
- ・コロナに始まり、コロナに終わる一年であった。観光協会としても、観光振興に向けて関係機関との連携を模索してきた。そうした中で、規模を縮小したもののハロカぼランタンプロジェクトを実施できた。今後、コロナウイルス感染症の影響でどのようになるかわからないが、学校と引き続き連携していきたい。
- ・ライオンズクラブの社会貢献活動の一環として、献血に取り組んでいる。現在、献血量が減少していることもあり、高校生の献血の協力が得られたらと考えている。また、角島、土井ヶ浜の清掃を高校生とやることができたらと考えている。
- ・学校運営状況の全体への説明は、プロジェクターを用いてしていただけると分かりやすいのではないかと。また、学校説明会などで用いることができる1～2分の動画を作成することを勧める。これからはZoomなどICTの導入をしていく必要があるのではないかと。は素晴らしいと思う。
- ・学校評価書における自己評価（資料2）について、生徒保体の領域における「下関北高校への完全移行に当たり、校訓を意識した学校づくりに努める」の学校関係者評価はBではなくAでもよいのではないかと。また、業務改善に領域における月の時間外業務時間を30%削減し、100時間を超えた教職員を0人にした成果は素晴らしいと思う。
- ・北高ガイダンスや地元中学校生徒会と本校生徒会の熟議が実施できなかったことが残念である。今後は、小中高の連携ができないか考えている。
- ・働き方改革について、上が仕組みを変えない限り、難しいものがある。先生方は本当に忙しい。学校を手助けする応援団を作っていないと教職員が疲弊してしまう。コミュニティスクールでどのように応援団を作っていくか考えていきたい。
- ・北高ガイダンスや生徒会の熟議などの特色ある取組を来年度は実施したい。部活動での先輩・後輩のつながりは非常に大きい。可能な限り中高連携ができるとありがたい。
- ・「継続は力なり」というが、北高ガイダンスなどの中高連携した取り組みを継続し、今後発展させることで本校への志願者数増加につなげたい。

- ・最終退校時刻19：00ほどの程度定着しているのか。
 - 下関北高校になり、徐々に残業時間が増加し、月平均60時間オーバーになった。当時、20：00となっていた最終退校時刻では県の規定を超えてしまうため、昨年度途中から19：00改めた。業務改善のために省けるところは省く、スクラップ&ビルドのスクラップを重視する必要がある。管理職としては目標を実現できるプランを作っていきたい。

- ・本校の説明会を来年度は実施してほしい。今年度、本校を志願する生徒が少ないのが気になる。これが今年度だけなのか、来年度以降も少ないのか、わからない。入学志願者のみを募り、説明会を開催し、紹介ビデオを見せるところもある。

- ・ハロカぼランタンプロジェクトや陸上部のボランティアなど今後も小中高で連携していきたい。小学校では教育課程のなかでさまざまなものを作るので、将来的には、それを中学校で加工し、高校の地域探究の授業などで付加価値を付けて販売できないかと考える。この地域で利益を生み、この地域でやっていけるという実感をもって高校を卒業していける仕組みづくりをしていきたい。

○令和3年度「学校教育目標」について、資料3を用いて説明（校長）

【委員からの主な意見】

○委員からの意見はなし。拍手多数で学校教育目標を承認。

2 次年度以降の地域と連携した教育活動について

○「地域と連携・協働した活動の記録」（資料4）を用いて、主だった活動について説明（校長）

【委員からの主な意見】

○委員からの意見はなし。

3 その他

（4）閉会

- ・下関北高等学校第1回卒業証書授与式についての連絡